

平成 29 年 3 月 9 日

高 校 教 育 課

丹後地域における府立高校の在り方

－本日開催の教育委員会で基本的な方針を決定－

今後、中長期的にみて少子化傾向が顕著な丹後地域において、学校の小規模化による様々な課題を解消し、生徒一人一人の希望進路の実現に向けたより魅力ある高校教育を推進するため、丹後地域の府立高校を再編し、併せて、将来の丹後地域を支える人材を育成する教育システムを構築します。

1 学舎制の導入

多様な教育課程を編成し、将来の地域を支える人材を育成するという高校の役割を果たすため、一定の生徒数、教職員数を維持するとともに、通学の利便性にも配慮して、現在の校舎を活用する学舎制を導入する。

〔学舎制導入校〕宮津高校と加悦谷高校、網野高校と久美浜高校

2 京都フレックス学園構想に基づく学校づくり

各分校での取組を継承しつつ、その機能を集約して教育内容の充実を図るため、現峰山高校弥栄分校の校地において、宮津高校伊根分校、峰山高校弥栄分校、網野高校間人分校の3校を統合し、個々の生徒のニーズに応じた柔軟な教育を行う京都フレックス学園構想に基づく学校づくりを行う。

3 「地域創生教育推進プログラム」の実施

将来の丹後地域を支える人材を育成するため、府北部地域の振興に参画している府内の大学や特色ある取組を行っている他府県の大学、地元市町、企業など関係機関と連携し、広く丹後地域のことを学ぶ教育活動を丹後地域の全ての府立高校において実施する。

4 実施時期

平成 32 年度（平成 29 年度から具体的な検討・調整等を進める。）

魅力ある高校づくりを推進



京都府教育庁指導部高校教育課
中島高校改革担当課長：075-414-5696
<http://www.kyoto-be.ne.jp/koukyou/>

【参考】

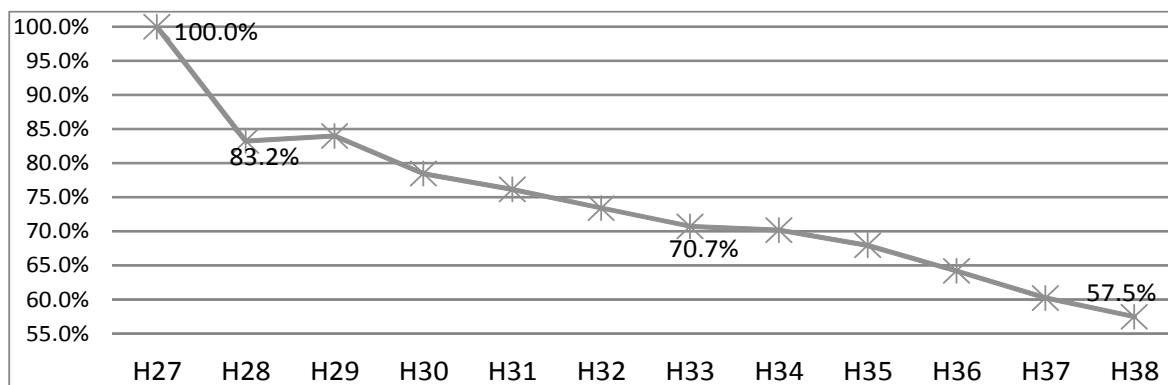
1 現状と課題

今後、中長期的にみて丹後地域においては少子化傾向が顕著で、平成28年度の中学校3年生が904名と1,000名を割り込み、さらに、5年後には700名台、10年後には600名台となる見込みであり、学校の小規模化によって、習熟度別の授業や部活動が維持できないなど学校教育活動にさまざまな課題が生じるのではないかとの危惧から、より魅力ある高校教育を推進することが求められている。

また、丹後地域の人口動向をみると、大学進学時を含む15～19歳の人口の転出が大きく、20～29歳の人口の転入はあるものの転出に比べるとかなり少ない。そのため、高校・大学等卒業後に、地域で生活し、地域を支えるという意識を子どもたちに醸成することが学校教育に求められている。

◎丹後地域の中学校3年生数・各高校(全日制)の1学年あたりの募集定員の推移

< 中学校3年生数推移 >



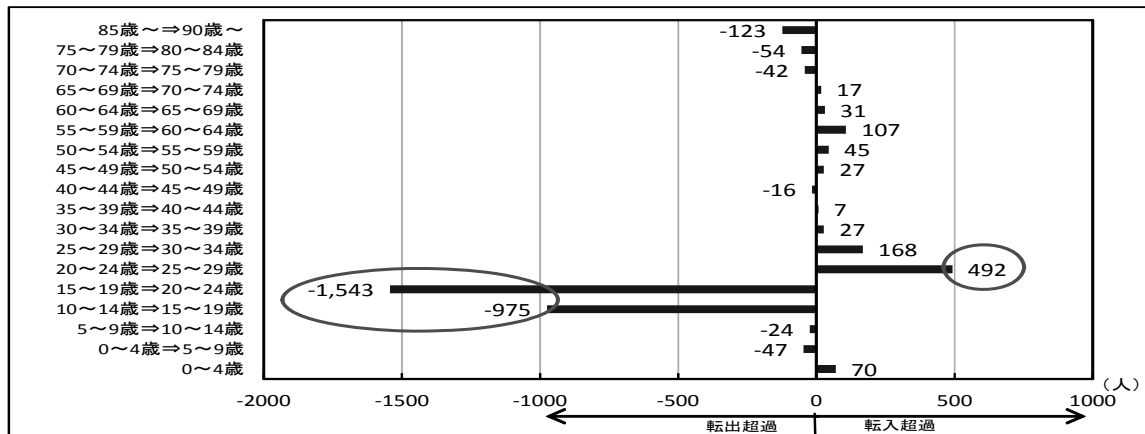
※平成29年度以降は、平成28年5月1日現在「学校基本調査」等を元にした推計値

< 1学年あたりの募集定員等推移 >

年度 (選抜年度)	S63 (元年度)	H27 (28年度)	H28 (29年度)	H33 (34年度)	H38 (39年度)
中3生数	2,192	1,086	904	768	624
宮津高校	440	190	170	150	110
海洋高校	160	100	95	* 95	* 95
加悦谷高校	360	120	90	70	60
峰山高校	475	280	230	210	160
網野高校	360	150	120	100	80
久美浜高校	175	90	84	60	50
計	1,970	930	789	685	555

※表中、平成34及び39年度選抜の募集定員は、中学校3年生数等を元に推計した上で、地域の生徒数を元に機械的に割り振った推計値。ただし、海洋高校は平成29年度選抜の数値を横置き

◎丹後地域の人口動向（「京都府人口ビジョン」（平成27年10月）より）



2 在り方検討の基本となる考え方

丹後地域の府立高校が果たすべき役割を踏まえ、単に、生徒数だけをもとにした再編・統合は行わない。丹後地域の通学事情を考慮しつつ、一定の規模のあった高校が、小規模化していくことによる教育活動等における諸課題をできる限り解消し、より魅力ある高校教育を推進する。

＜丹後地域の府立高校の主な役割＞

- ・ 生徒の個性や能力を最大限に伸ばす教育
（多様な学びの場の保障、教育環境の充実、教育の質の維持・向上）
- ・ 各地域の将来を支える人材の育成
- ・ 地域社会の活性化への貢献（地域の最高教育機関としての役割）

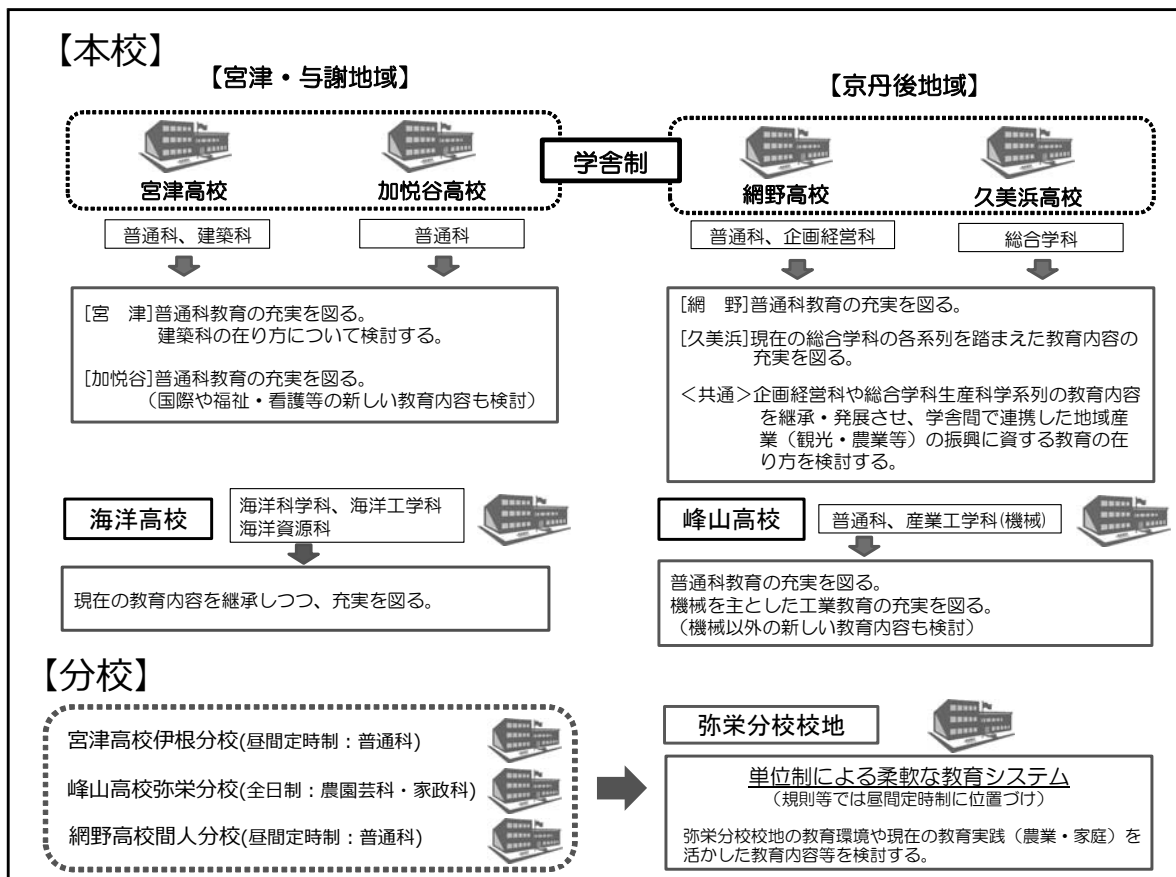
3 本校・分校の在り方

【本校】

- ◎多様な教育課程を編成し、将来の地域を支える人材を育成するという高校の役割を果たすため、一定の生徒数、教職員数を維持するとともに、通学の利便性にも配慮して、現在の校舎を活用する学舎制を導入する。
- ◎学舎制の導入に向け、設置学科、教育課程、連携内容（授業、学校行事、部活動等）などについて具体的な検討を進めるとともに、実施にあたって整理すべき事項（学校名・校章・校歌・制服などの検討、学校体制等）について該当校及び関係機関と調整を行う。
- ◎学舎制を導入しない高校についても、教育内容の充実に向けて検討を進める。

【分校】

- ◎各分校での取組を継承しつつ、その機能を集約して教育内容の充実を図るため、現峰山高校弥栄分校の校地において、宮津高校伊根分校、峰山高校弥栄分校、網野高校間人分校の3校を統合し、個々の生徒のニーズに応じた柔軟な教育を行う京都フレックス学園構想に基づく学校づくりを行う。
- ◎学校体制や教育内容などについて、具体的な検討を進める。



4 「地域創生教育推進プログラム」

再編と併せて、将来の丹後地域を支える人材を育成する教育システムを段階的に構築する。

府北部地域の振興に参画している府内の大学や特色ある取組を行っている他府県の大学、地元市町、企業など関係機関と連携し、次のような広く丹後地域のことを学ぶ教育活動を丹後地域の全ての府立高校において実施する。

- 地域学習 (自然・文化・産業・市町の取組などについて学ぶ)
- 地域研究 (探究活動、学校間での成果の交流・発表など)
- 地域連携・地域貢献活動
- 地域職業体験 (幅広い分野でのソーシャルインターンシップ)

5 今後の予定

平成32年度からの実施に向けて、平成29年度から具体的な検討・調整等を進める。

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	再編実施 平成32年度
現在の高校 に入学して 卒業	中学校3年	高校1年	高校2年	高校3年	(定:高校4年)
	中学校2年	→中学校3年	→高校1年	→高校2年	→高校3年
	中学校1年	→中学校2年	→中学校3年	→高校1年	→高校2年
再編後の 高校に入学	小学校6年	→中学校1年	→中学校2年	→中学校3年	→高校1年